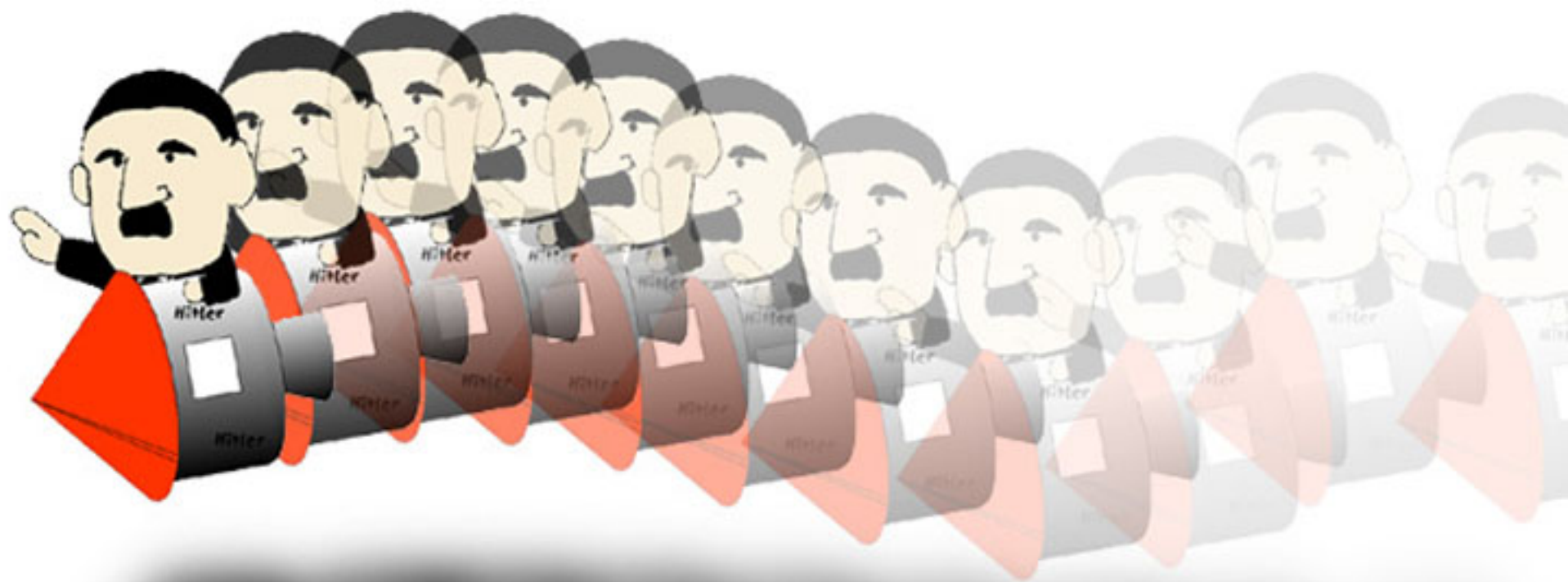


ヒトラーのタイムマシン

平井和正



世界最初のタイムマシンは、アドルフ・ヒトラーによって建造された。

「ハイル・ヒトラー！ タイムマシンこそ、原爆など及びもつかぬ、最高最終兵器であります」

ナチス・ドイツの誇る戦争科学者、リヒター・フォン・ハインライン博士が、ヒトラーに入れ知恵したのである。

「総統閣下。タイムマシンを使用して、過去の世界へ我が国軍の精鋭部隊を送り込み、我が純良なるアーリア人種の血だけを残し、他の野蛮なる劣悪人種をみんなぶっ殺してしまつては如何でしょう」

と、リヒター・フォン・ハインライン博士は進言したので。

「よし。原爆製造は中止する。他の研究は即時打ち切つて、研究費をタイムマシン建造計画に注ぎ込むことにする」

ときに、ナチス・ドイツに戦局悪し、ヒトラー総統のもとへ連日敗戦の悲報が続々と舞い込んできていた。

最初は兵器及び兵員大量輸送用の大型タイムマシンを建造するはずが、ピンチになるにしたがつて、尻すぼみになつてきた。

1944年7月、南ドイツ・ベルヒテスガルデンの山荘で、暗殺者の爆弾に危うく吹っ飛ばされかかり、ヒトラー総統は、もうなんでもいい、うんとちっぽけなでもいいから、完成を急げと厳命を下した。

「百人乗り、いや、五十人、うぬ十人乗りでも構わん。早

くせんか」

さしものヒトラー総統もすっかりたそがれてしまったのである。

1945年3月、ベルリン陥落間近しというどん詰まりで、タイムマシンはようやく完成した。この時、タイムマシンは一人乗りという自転車並みの体たらくであった。

「ハイル・ヒトラー！ お待たせしました。そして御達者で」

ヒトラー総統を収容した一人乗りタイムマシンはおもむろに始動し、ぱつと煙の如く消え失せた。

そして、五分後、タイムマシンは朦朧と姿を現した。ドアを開けて転げ出てきたヒトラー総統は、これいかに、頭はつるつる、ちょび髭は真っ白け、よぼよぼの年寄りと化していた。

ヒトラー総統はなにごとかしきりにわめいていたが、歯抜けの口がモガモガするだけで、何をいつているのかだれにもわからなかった。

かくして、世界最初のタイムマシン建造、そして運行はたしかに成功をおさめた。だが、このタイムマシンはわずか五分後の未来へ行くのに、実に操縦者には三十年がかりという恐ろしいシロモノであった。

ヒトラー総統は、首尾よく連合軍の目を掠めて、南米へと逃げ延びることに成功した。

九十歳のしなびた年寄りが、まさかヒトラー総統その人

であるとは、だれも気づかなかつたのである。

終

「少年チャンピオン」秋田書店 2号 1970・1・21掲載

ヒトラーのタイムマシン

デジタル版

発行日 2000年5月21日

著者 平井和正

イラスト 長尾 太

デザイン ルナテック

発行 有限会社ルナテック

〒125 0041

東京都葛飾区東金町3 13 6

info@ebunko.ne.jp

<http://www.ebunko.ne.jp/>

(C) KAZUMASA HIRAI, FUTOSHI NAGAO, LUN
ATECH

本作品は著作権上の保護を受けています。本作品の一部あるいは全部について、無断で複製・複製・転載することは禁じられています。